

第4期 西区自治協議会 成果と課題
(平成25年度～平成26年度)

西区自治協議会

1 委員編成

- (1) 第4期 西区自治協議会 委員名簿・・・・・・・・P 1
- (2) 部会の構成及び構成員名簿・・・・・・・・P 2

2 成果と課題

- (1) 全体に関する事・・・・・・・・P 4
- (2) 第1部会に関する事・・・・・・・・P 7
- (3) 第2部会に関する事・・・・・・・・P 8
- (4) 第3部会に関する事・・・・・・・・P 10
- (5) プロジェクトチーム1に関する事・・・・・・・・P 12
- (6) プロジェクトチーム2に関する事・・・・・・・・P 13
- (7) プロジェクトチーム3に関する事・・・・・・・・P 15

3 資料

- (1) 意見聴取等結果等一覧・・・・・・・・P 17
- (2) 要望書・・・・・・・・P 18

1 委員編成

(1) 第4期 西区自治協議会 委員名簿

(順不同・敬称略)

氏 名	所 属	就 任 期 間
加藤 惇一	内野コミュニティ協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
玉野 寛	西内野コミュニティ協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
◎ 真嶋 民雄	コミュニティ中野小屋	平成25年4月1日～平成27年3月31日
小林 宏	コミュニティ佐潟	平成25年4月1日～平成26年4月30日
高島 圭介	コミュニティ佐潟	平成26年6月26日～平成27年3月31日
伊田 修一	坂井輪中学校区コミュニティ協議会	平成25年4月1日～平成25年8月31日
長谷川 洸	坂井輪中学校区コミュニティ協議会※	平成25年10月29日～平成27年3月31日
○ 福島 富	坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
笠原 哲男	東青山小学校区コミュニティ協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
山田 昌夫	五十嵐小学校区コミュニティ協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
佐野 赳夫	真砂小学校区コミュニティ協議会	平成25年4月1日～平成26年5月31日
大谷 勇	真砂小学校区コミュニティ協議会	平成26年7月31日～平成27年3月31日
村井 良次	青山小学校区コミュニティ協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
○ 岩脇 正之	小針小学校区コミュニティ協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
大谷 一男	黒埼南ふれあい協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
佐野 貞之	大野校区ふれあい協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
斎藤 明夫	立仏校区ふれあい協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
松井 建吾	山田校区ふれあい協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
斎藤 敏夫	佐潟と歩む赤塚の会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
宗村 瑞枝	にいがたっ子スペースくろさき運営協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
佐藤 正子	西区民生委員児童委員会長連絡会	平成25年4月1日～平成25年11月30日
丹羽 礼子	西区民生委員児童委員会長連絡会	平成25年12月20日～平成27年3月31日
西條 和佳子	NPO法人 ワーキング・ウィメンズ・アソシエーション	平成25年4月1日～平成27年3月31日
丹治 嘉彦	新潟大学 教育学部 芸術環境講座	平成25年4月1日～平成27年3月31日
松川 美穂	新潟大学 人文学部(学生)	平成25年4月1日～平成27年3月31日
内田 亨	新潟国際情報大学 情報文化学部情報システム学科	平成25年4月1日～平成27年3月31日
日木 公美子	新潟国際情報大学 情報文化学部情報システム学科(学生)	平成25年4月1日～平成27年3月31日
横山 正紀	西区PTA連絡協議会	平成25年5月29日～平成26年3月31日
廣澤 晃隆	西区PTA連絡協議会	平成26年5月29日～平成27年3月31日
富岡 照子	西区老人クラブ連合会	平成25年4月1日～平成27年3月31日
錦 恵美子	新潟大学教育学部非常勤講師	平成25年4月1日～平成27年3月31日
石丸 幸子	公募委員	平成25年4月1日～平成27年3月31日
近藤 武雄	公募委員	平成25年4月1日～平成27年3月31日
酢山 省三	公募委員	平成25年4月1日～平成27年3月31日
長谷川 イミ	公募委員	平成25年4月1日～平成27年3月31日
広瀬 喜代子	公募委員	平成25年4月1日～平成27年3月31日
田中 京子	新潟みらい農業協同組合	平成25年4月1日～平成27年3月31日
稲毛 秀実	西区社会福祉協議会	平成25年4月1日～平成27年3月31日

◎・・・会長, ○・・・副会長

※平成26年5月25日付け坂井輪中学校区まちづくり協議会に変更

(2) 部会の構成及び構成員名簿

(部会長、副部会長、現委員、前委員の順に掲載・敬称略)

<通常部会(部会)>

第1部会

担当分野：防犯、防災、自然環境、住環境、その他西区自治協議会が定めるもの
所属委員：笠原 哲男(部会長)、山田 昌夫(副部会長)、高島 圭介、長谷川 洸、
福島 富、大谷 勇、岩脇 正之、斎藤 明夫、富岡 照子、広瀬 喜代子、
田中 京子、小林 宏、伊田 修一、佐野 赳夫

第2部会

担当分野：保健福祉、文化、教育、その他西区自治協議会が定めるもの
所属委員：宗村 瑞枝(部会長)、石丸 幸子(副部会長)、加藤 惇一、村井 良次
大谷 一男、丹羽 礼子、松川 美穂、日木 公美子、廣澤 晃隆、
錦 恵美子、長谷川 イミ、稲毛 秀実、佐藤 正子、横山 正紀

第3部会

担当分野：農林水産業、商工業、交通、その他西区自治協議会が定めるもの
所属委員：近藤 武雄(部会長)、内田 亨(副部会長)、酢山 省三(副部会長)、
玉野 寛、真嶋 民雄、佐野 貞之、松井 建吾、斎藤 敏夫、西條 和佳子、
丹治 嘉彦

<特別部会(プロジェクトチーム)>

プロジェクトチーム1

担当分野：区制のあり方、区役所整備及び区内施設の新設・用途変更に関するもの
所属委員：福島 富(部会長)、斎藤 明夫(副部会長)、加藤 惇一、真嶋 民雄、
高島 圭介、長谷川 洸、大谷 勇、村井 良次、岩脇 正之、佐野 貞之、
松井 建吾、富岡 照子、近藤 武雄、稲毛 秀実、小林 宏、伊田 修一、
佐野 赳夫

プロジェクトチーム2

担当分野：自治協議会広報紙の編集に関するもの
所属委員：酢山 省三(部会長)、広瀬 喜代子(副部会長)、大谷 一男、宗村 瑞枝、
内田 亨、日木 公美子、石丸 幸子

プロジェクトチーム3

担当分野：西区アートフェスティバルの企画・実施に関するもの

所属委員：丹治 嘉彦（部会長）、大谷 一男（副部会長）、松川 美穂、日木 公美子、
石丸 幸子、酢山 省三、長谷川 イミ、田中 京子、横山 正紀

2 成果と課題

(1) 全体に関すること

○活動の活発化

自治協議会活動の基本は区民との連携強化を、各委員が深く認識して区民の参画、協働の意識向上に努めることが大切であると確認できた。

●本会議への出席及び討論

- ・自治協議会委員 33 名（うち 24 名が新任委員）で第 4 期の活動がスタートし、自治協議会の委員としての力を発揮できるよう前期に引き続き「自治協議会オリエンテーション」が開催された。
- ・本会議への出席率を高めるよう、委員の自覚を求める願いが出され、改善が図られてきた。

●各部会での討論

- ・前期の体制を踏まえて 3 部会、3 プロジェクトチームに再編され、全委員がいずれかの部会に属して積極的に発言がなされ、部会活動を通じて自治協議会委員としての自覚を高め、役割を発揮することに結びついた。
- ・各部会の独自課題をはじめ、「特色ある区づくり事業」「自治協議会提案事業」についても活発に討論がなされ、個別の事業に自主的、積極的に取組む面で前進が図られた。
- ・自治協議会活動の基本はあらためて各部会が「基礎=土台」であることが確認できた。

○課題を深く検討してまとめ上げる努力の面での前進

下記の 2 つの課題ではこれまで以上に部会を中心とした活発な討議を踏まえての自治協議会としての努力が具体的な成果として結実した。

- ・西区生活交通改善プラン作成について
- ・「自治の深化に向けて - 区自治協議会議のさらなる協働の推進 - 」について

なお、詳細については各部会の成果と課題にまとめてある。

○自治協議会委員の成長を図る西区独自の「区自治協議会委員研修」開催

「自治の深化に向けて」の施策の中で H26 年度からスタートした区自治協議会独自の研修会が開催され、委員のスキルアップ・意識向上に結びついた。

●平成 26 年 10 月 30 日

講師：市民生活部 朝妻部長、市民協働課 堀課長補佐

テーマ：自治協議会活動、西区自治協議会の評価等について、
他区自治協議会の活動状況について

●平成 27 年 2 月 26 日

講師：高齢者支援課 佐久間課長、河田 瑠子氏

テーマ：地域包括ケアシステムについて

○行政への要望事項について

今期の行政への要望事項及びその改善については、下記のとおりである。

- 除雪体制については、前期での「区民との協働による除雪対策推進に向けた要望書」（平成 24 年 9 月 11 日）に続いて、「市が除雪する道路の考え方についての土木総務課への再質問事項」（平成 26 年 9 月 4 日）を提出した。

その後の西区建設課が実施する除雪路線の延長は評価できるが、本庁の土木総務課に要望した除雪すべき路線（生活路線）の考え方など「今後検討すべき課題」はほとんど前進が無く、今後強力に取り組む必要がある。

- 市民の BRT 問題への関心・理解を深めるため、「新潟市議会 9 月定例会での BRT の接続バス購入関連議案の提出に関する要望書」（平成 25 年 8 月 6 日）を提出した。

- 15 コミ協会長会議を踏まえて、新潟市長への「地域コミュニティ協議会への財政支援について」（平成 25 年 9 月 3 日）を提出した。

その後、コミ協への地域活動補助金の一時的な増額となったが、抜本的な改善策が先送りとなっており、今後のコミ協への支援のあり方も見ながら、引き続き働きかけが重要である。

- 「教育委員の担当区制」についての論議の中で「教育事務所の全区の設置」を要望し、平成 26 年度から、西区教育支援センターが設置された。

○自治協議会提案事業の取り組み

平成 25 年度の 5 つの事業と平成 26 年度の 6 つの事業は担当部会の奮闘、地域課の協力によって全て予定通り実施され、多くの区民に喜ばれた。

※詳細は各部会のまとめを参照のこと。

<平成 25 年度>

- ・平成 25 年 10 月 27 日
第 1 回西区アートフェスティバル（プロジェクトチーム 3）
- ・平成 25 年 12 月 7 日
いじめをテーマにした講演会（第 2 部会）
- ・平成 26 年 2 月 2 日
いじめをテーマにしたワークショップ「大人にできること」（第 2 部会）
- ・平成 26 年 2 月 21 日
自治会長研修会「西区まちづくりシンポジウム」
- ・平成 26 年 3 月 16 日
防災講演会（第 1 部会）
- ・西区自治協議会広報紙「西区を豊かに」発行（プロジェクトチーム 2）

平成 25 年 7 月 15 日	第 6 号発行
10 月 1 日	第 7 号発行
平成 26 年 1 月 1 日	第 8 号発行
3 月 31 日	第 9 号発行

<平成 26 年度>

- ・平成 26 年 9 月 7 日
高齢化をテーマにした講演会（第 2 部会）
- ・平成 26 年 9 月 21 日
佐潟の保全と活用「潟普請」地域連携事業（第 3 部会）
- ・平成 26 年 9 月 23 日
親子で楽しむ絵本関連事業（第 2 部会）
- ・平成 26 年 10 月 5 日
「おいしい!」を言葉に～特産品から考える味の表現～（第 3 部会）
- ・平成 26 年 10 月 26 日
第 2 回西区アートフェスティバル（プロジェクトチーム 3）
- ・平成 26 年 12 月 17 日
自治会長研修会「西区まちづくりシンポジウム」（第 1 部会）

※平成 26 年度より、広報紙の発行は自治協議会提案事業とは別事業として実施

○第 5 期に期待する課題

「区自治協議会委員研修会」（H26 年 10 月 30 日開催）で、講師の朝妻市民生活部長から「自主的・主体的な活動が活発」「期末の自己点検による成果と課題を継承している」「西区の歴史を自ら創造している」と評価された。これを生み出した下記の実践を今後も改善しつつ実行することが期待される。

- ・本会議の進行協議のための運営会議の開催
- ・部会での討議の充実と本会議での議題の検討
- ・区民、市民に喜ばれる自治協議会提案事業の取組み
- ・区民、市民の意見や要望を調整した積極的な行政への働きかけ
- ・自治協議会活動を報せる、読まれる「広報紙」の継続的発行

この他の第5期の課題は、各部会の成果と課題を参照のこと。

(2) 第1部会に関すること

【成果】

○自治協提案事業について

- 東日本大震災の発生により、防災意識が高まる中、今期は特に津波対策について議論した。

また、さらなる意識向上を図るため、「防災講演会 津波に負けない災害文化」を開催した。講演会は盛況であり、継続的に防災（地震・津波対策）について深めていくきっかけをつくることができた。これにより、区民の防災に対する意識が向上し、自主防災組織結成率の増加、地域での防災マップ作成数増加につながった。

- 自治会長研修会は、部会で所管する分野以外に高齢者の見守りなどの内容も含んでいたが、地域での自治会のあり方を共有する大事な場となった。

○除雪について

- 地域での除雪に関する課題を解消するため、部会での議論を続けてきたが、市道の除雪路線拡大については、区の努力もあって平成25年度は25.9キロメートル、平成26年度は16.4キロメートル延長の実績を上げることができた。全8区の中では市道の除雪延長改善が最も進んだ。

- 除雪すべき路線（生活路線）について、市に対し第3期に提出した「区民との協働による除雪対策推進に向けた要望」（平成24年9月11日）に引き続き、「市が除雪する道路の考え方についての土木総務課への再質問事項」（平成26年9月4日）を提出した。提出後には、市担当課と意見交換を行った。

「住民が多く利用する道路は市が除雪するもの」という除雪すべき路線の考え方については進展がなかったが、検討し改善を求めた。

【課題】

○除雪について

- 市道認定されている道路の中には、交通量の少ない農道が含まれているため、西区の市道除雪率は低い傾向にあるが、住民が多く利用する道路については、除雪路線の拡大が望まれている。

除雪すべき路線（生活路線）の全市統一基準を設定し、市民生活を安定させるうえでも、除雪路線の拡大は重要な課題である。

○防災について

防災について、意識啓発を図るために講演会を開催するほか、地域での防災を学校と連携して学び、教育にも活かしていくことが必要である。

○住環境について

- 区が行う飛砂被害軽減のための対策について推移を注視する。また、飛砂防止のために植樹されている保安林の保全活動についても見守る。

- 「西区一斉クリーンデー」の検証を行い、開催時期、目的の徹底、取組内容の改善等を行う必要がある。

また、地域美化活動に協働で取り組み、ごみに関する課題について検討する必要がある。

○検討課題について

- 防災と除雪についての議論が多く行われたが、大型商業施設の増加により犯罪も増加する可能性があるため、地域での防犯について検討する必要がある。

- 部会の所管する分野が広範囲であるため、あらかじめ年間計画をたてるなどして議論していく必要がある。

（3） 第2部会に関すること

【成果】

○自治協議会提案事業について

期を通して、地域課題を解決するため、子どもからお年寄りまでの幅広い年代を対象とした自治協議会提案事業の実施に取り組んだ。

- 「学校におけるいじめの根絶」という課題への取組として、平成25年度に実施した「いじめをテーマにした講演会・ワークショップ」は、保護者や学校関係者の出席は少なかったが、アンケートによる参加者の満足度は高く、充実した内容であった。

- 絵本の魅力を身近に感じてもらうことを目的に、平成26年度に実施した「絵本を楽しむ秋のひととき」は、自治協議会として初めて親子・子育て世代を対象に企画した。この企画は、区を中心図書館としてリニューアルオープンした坂井輪図書館と共催したことで、自治協議会単独では実施が難しい貴重な資料展示や子どもへの読み聞かせなどを行うことができた。
- 「高齢化・介護」という課題への取組として、平成26年度に実施した「上野千鶴子講演会」は、著名な講師を招聘し「在宅ひとり死」や「介護」を身近に考えるきっかけとなった。

○高齢者支援について

- 「高齢者支援」という観点から、地域包括ケアシステムにおいて、地域に期待されることなどを学ぶ研修会の開催を提案し、西区自治協議会委員研修会の実施に繋がった。
- 介護保険制度の改正や地域包括ケアシステムについて検討する前に、現行の介護保険制度を学ぶ勉強会を実施したことで、部会での議論がスムーズに進むことに繋がったほか、部会員の知識を深めることができた。
- 西区内の介護保険施設の状況を確認するため、施設見学を行った。
(見学場所：特別養護老人ホーム及び老人デイサービスセンター有明園)
施設内部を見学したほか施設の職員と意見交換を行い、入所者の状況について知る良い機会となった。

○民生委員児童委員の適正配置について

前期の課題である「民生委員児童委員の適正配置」について議論した結果、地区により担当する世帯数が違うことや区の定員が決まっていることなどから、適正配置については、民生委員協力員制度の進捗状況などについて注視していくこととした。

※前期からの課題として引き継いだ「アートフェスティバルの開催」についてはプロジェクトチーム3で、「自治会長研修会の開催」については実施を担当した第1部会のところに記載している。

【課題】

○高齢者支援について

超高齢社会という課題や介護保険制度への理解などを深めるため、高齢化をテーマにした講演会を継続して開催する必要がある。

また、今後も各種勉強会を実施し、部会員の知識をさらに深めながら議論していく必要がある。

○スポーツについて

次期は、だれもが楽しめ健康増進にもつながる「スポーツ鬼ごっこ」の普及啓発を自治協議会提案事業として取り組むため、実施に向けて具体的に検討していく必要がある。

○親子で楽しめる事業の実施について

今期自治協議会提案事業として開催した子育て世代や親子向けの事業が好評であったことから、継続実施について検討していく必要がある。

○子どもに関する事項について

平成27年度から実施される「新潟市子ども・子育て支援事業計画（新・すこやか未来アクションプラン）」について勉強会を実施し、子育て支援への議論を進める必要がある。

また、今期実施した「いじめをテーマにした講演会・ワークショップ」に保護者や学校関係者の出席が少なかったことから、学校教育に関する課題について自治協議会が独自に取り組むことの難しさを実感した。

今後は、教育ミーティングなどでの意見交換を通して、自治協議会にできることを検討していく必要がある。

（４） 第3部会に関すること

【成果】

○新バスシステム事業について

新バスシステム事業について、市の積極的な取組により市民の関心が広がっていた中で、西区自治協議会は、市民の理解がより広がることが重要であり、そのために、もう少し時間をかけての説明が必要であると考え、新潟市議会9月定例会でのBRTの接続バス購入関連議案の提出について再考を促すため、平成25年8月に要望書を市長に提出した。

○西区生活交通改善プランについて

西区生活交通改善プランの策定にあたっては、地域の声をプランに反映させるため、平成 26 年 3 月に区内の 15 コミュニティ協議会へアンケートを実施した。その結果をもとに、意見をいただいたコミ協選出委員を交えて部会等で議論を重ねるとともに、交通事業者との意見交換も行い、区と協働で地域の声を反映させたプランを策定した。

○佐潟の保全と活用について

佐潟周辺自然環境保全計画の改定（平成 26 年 3 月）にあたり、市と意見交換を行った。改定後の計画は、第 3 期に市長に提出した「佐潟湖水再生の取り組みに関する要望書」の内容が取り入れられたものとなったほか、平成 26 年度から市による潟の浚渫工事が始まった。また、要望の思いを「かたち」で示すため、平成 26 年度自治協提案事業として「佐潟クリーンアップ活動『潟普請』」に参加し、佐潟の現状についての認識を深めた。

○自治協提案事業「『おいしい！』を言葉に～特産品から考える味の表現～」について

自治協提案事業「『おいしい！』を言葉に～特産品から考える味の表現～」を平成 26 年度の西区ふれあいまつりにおいて行った。ステージで西区の特産品や郷土料理の味を言葉で表現する企画を行ったほか、会場内のブースでは、西区の郷土料理の試食と展示を行い、広く PR をすることができた。当事業は、新潟国際情報大学、日本こども福祉専門学校の学生とともに、自治協議会と学校との協働を実践した、学術・文化のまちである西区らしい取組であった。

○農業・商業について

「農業戦略特区」を含む西区の農業や西区拠点商業活性化推進事業計画について、学習を行った。自治協として、取り組む課題として整理するまでには至らなかったが、議論を始める段階まで進めることが出来た。

【課題】

○公共交通について

新バスシステムの導入やバス路線の再編、JR 越後線の今後の動きを注視し、地域とともに西区の公共交通について検討していく必要がある。具体的には、「新バスシステム」や「西区生活交通改善プラン」について検証を行っていく。その上で、必要があれば市や交通事業者との意見交換の場として、西区地域公共交通検討会議の開催を要望していく。

○佐潟について

西区のみならず市の宝である佐潟を地域と共に守り育て、後世に残してほしいとの自治協の願いを示すため、当面は継続して「潟普請」へ参加していく必要がある。また、西区の観光地として佐潟をさらにPRしていく必要がある。

○農業について

新潟市が指定を受けた「農業戦略特区」など、農業を取り巻く環境が大きく変わりつつある中で、市の農業政策について関心を持ち、その推移を注視していく必要がある。

○商業について

平成27年度より、西区拠点商業活性化推進事業計画に基づいた取組が始まることから、商店街の状況について注視し、地域の目線で、商店街の活性化について検討する必要がある。

○観光について

第3期には、埋もれた西区の観光資源の掘り起こしを行ったが、今期は、赤塚地域における観光推進の取り組みを把握するにとどまった。来期はさらに区全体の観光について取り上げていく必要がある。

○全体について

- 第4期の部会で取り扱ったテーマは、「交通」が中心となり、「観光」「商工」についてあまり注力することができなかった。
- 西区の特産物やイベントについてアピールするためにもイベント等を開催する際には、西区以外にも積極的に広報していく必要がある。

(5) プロジェクトチーム1に関すること

【成果】

- 区における住民自治を強化するため、「大都市制度についての地方制度調査会答申」の勉強会を開催し、さらなる区への予算や人事権の拡大の必要性を確認できた。

- 区役所庁舎建設について審議をおこなった経緯から、新庁舎オープンの際に行った、西区独自の「一日区長事業」（特色ある区づくり事業）について審議した。
- 「地域（区）における自治の深化について」の中で、自治協議会のあり方や委員構成等について審議した。自治協議会委員からの質問の集約等、自治協議会委員や区民の声を踏まえての提案に努力し、1号委員の再々任や全体会の基本ルールづくりなどの要望を「区自治協議会のあり方と支援方法」についての方針に反映させることができた。

【課題】

- 区の制度のあり方や住民自治を充実していくための勉強会、研修会の開催が重要な課題である。
- 区民のアンケート調査による区役所庁舎建設場所の決定や区役所庁舎建設について審議をおこなった経緯があり、区役所および出張所のあり方を継続して取り上げていくことが必要である。また、区の一体感醸成を図るための「一日区長事業」に期待する。
- 「地域（区）における自治の深化について」の「区自治協議会のあり方と支援方法」についての方針がどのように実現されるかについて検証を続けることが課題である。また、委員の多様性の観点からも自治協議会に女性委員を増やしていくことが課題であり、1号委員にも女性委員を登用することが望ましい。
- 自治協議会とコミュニティ協議会の連携を深めることが課題である。その解決のために、自治協議会とコミュニティ協議会でそれぞれ行われている議論の内容が双方向で伝達されるよう自治協委員一人ひとりの認識が重要となる。

（6） プロジェクトチーム2に関すること

【成果】

- 年4回発行方針の実行について
自治協委員及び事務局の協力を得て、第4期全体で8回の発行を実行できた。

○読んでもらえる紙面づくり

- 自治協活動のうち、特に各部会が取り組んで区民・市民から喜ばれた提案事業を継続して掲載し、自治協の存在を知らせることに貢献できた。
- 多くの自治協委員の写真掲載が、読者から興味を持って読んでもらえることに繋がった。
- 紙面の「レイアウト」「配色」「カット」「写真」「題・見出し」には気を付けて、読んでもらえるための編集努力を続けた。
特に1面の編集では上記を心がけ、手に取ってもらえることに結びついた。
- 「区だより」を編集している地域課広報・広聴係との研修会でレイアウトや写真の撮り方等を学ぶことができた。
- 双方向の紙面づくりに努力し、初めての読者座談会を開催したほかアンケート付きのクロスワードパズルでは多数の貴重な応募をいただいた。
(H26. 1月号 405件 H27. 1月号 306件)

○継続的な編集体制づくりへの努力について
全メンバーが編集に関わることに心掛けた。

【課題】

○読まれる紙面づくりへの努力について

- 「自治協・広報紙が知られていない」「読まれていない」という現状を改善するために、「テーマの選び方」「読みやすい紙面づくり」等に引き続き努力する。
- 自治協やコミ協委員等の顔が見える編集を継続する。

○継続的に発行するための編集体制確立について

- 編集長を含めて、必要なスタッフの確保に努力する。
- 研修会の開催等、スキルアップをすすめる。
- 自治協委員全体で作り上げるプロセスを大事にする。
- 第4期までの経験を踏まえた「編集・発行マニュアル」を活用する。

○学生への配布・読んでもらえる工夫について

2つの大学での配布は続けられたが、読んでもらう工夫について努力する必要がある。

(7) プロジェクトチーム3に関すること

【成果】

○第3期の課題である西区アートフェスティバルの開催について、今期の自治協議会提案事業として2回開催した。

○第1回(平成25年10月27日)は、テーマを「音楽の力、西区の宝」とし、西区で活動している「音楽・芸能」分野の団体の発表の場として提供することができた。

第2回(平成26年10月26日)は、第1回に引き続きテーマを「音楽の力、西区の宝」としたが、音楽という分野を拡大しさまざまな団体の発表の場とするため、ダンスグループからも参加いただき、区民からも好評だった。

○西区で活動している団体等を多数集めての実施だったが、スタッフ一丸となってスムーズな進行に努め、やりとげることができた。

○運営には、部会員以外の委員からも協力してもらったが、初めて携わる委員でも当日の運営がスムーズにできるよう、第2回からスタッフの仕事内容をマニュアル化した。

○第1回はプログラム構成を「学校の部」「公民館利用団体の部」「伝統芸能の部」としたため、時間帯によって来場者の数に偏りが見受けられたが、第2回ではプログラム構成を「合奏の部」「合唱・ダンスの部」「芸能の部」と、演奏方法や演技内容で分けたため、来場者の均一化と長時間鑑賞する方を増加させることができた。

○アンケート調査では、第1回・第2回共に「素晴らしい内容で、次回もぜひ見に来たい」という意見が多く、来場者の満足度も非常に高かった。さらに、事業報告を記事として掲載した自治協議会広報紙「西区を豊かに」への感想としても、好評な意見が多く寄せられた。

開催当日は演奏者や演技者と来場者が音楽をとおして一体となっていたため、事業目的である「区民の一体感の醸成」が達成できた。

●第1回西区アートフェスティバル来場者：614人(1日の延べ人数)

●第2回西区アートフェスティバル来場者：644人(1日の延べ人数)

【課題】

- 自治協議会提案事業として西区アートフェスティバルの開催を継続し、音楽をテーマとした「西区の宝」を発信する場として定着させ、その後アート作品の展示会などを並行して検討する。

- 事業がマンネリ化しないよう、企画内容を検討する必要がある。

- アンケートに出演者や来場者のマナーについての意見があったため、出演者との事前打ち合わせの場や場内アナウンスによる注意などでの対応を検討する必要がある。

- 学生や地域ボランティアから企画や運営などに参加してもらうことはできないか検討し、関係団体等と協議していく。

- 来場者の増加を図るため、チラシの全戸配布を継続するとともに福祉施設に入所している高齢者からも来て楽しんでいただけるよう情報を提供する。また、テレビ・新聞・雑誌などマスメディアを活用した広報活動を検討する必要がある。

3 資料

(1) 意見聴取等結果等一覧

【 意見聴取 】

<平成 25 年度>

意見聴取時期：平成 25 年 7 月

件名： 平成 25 年度特色ある区づくり事業について【必須意見聴取事項】

回答の概要： 区企画事業及び自治協議会提案事業それぞれについて、部会及び本会の協議で議決してきた内容をもって、回答とした。

(平成 25 年 12 月)

<平成 26 年度>

意見聴取時期：平成 26 年 7 月

件名： 平成 26 年度特色ある区づくり事業について【必須意見聴取事項】

回答の概要： 区企画事業及び自治協議会提案事業それぞれについて、部会及び本会の協議で議決してきた内容をもって、回答とした。

(平成 26 年 11 月)

意見聴取時期：平成 26 年 4 月～平成 27 年 2 月

件名： 次期西区区ビジョンまちづくり計画について【必須意見聴取事項】

回答の概要： 次期区ビジョンまちづくり計画の内容について、部会及び本会の協議で議決してきた内容をもって、回答とした。

(平成 27 年 2 月)

(2) 要望書

第 4 期に提出した要望書について、次ページ以降に掲載する。



西自協第 18 号
平成 25 年 8 月 6 日

新潟市長 篠田 昭 様

西区自治協議会
会長 真嶋 民雄



新潟市議会 9 月定例会での BRT の 連節バス購入関連議案の提出に関する要望書

新潟市の BRT 導入計画に対して、西区自治協議会は第 3 期の平成 24 年度当初から、市の担当者からの説明を踏まえて特別部会等での検討を進めてきました。西区住民にとって公共交通機関のあり方は毎日の生活に直結するものであり、さらに市の説明によれば西区内に交通結節点が設けられ、利用者の乗換による不便が生じることを多くの区民が心配することとなり、西区自治協議会としても大きな関心を持って検討を始めることとなったわけです。

平成 25 年 3 月 1 日付で西区自治協議会は新潟市長に「・・・区民への十分な説明と理解を得たうえで、本事業をすすめていただくことを強く要望します」との要請を行いました。他の区自治協議会やコミュニティ協議会、新潟市議会でも同様の要望が多数出されたこともあって、今年度 4 月から市長を先頭にした各種の説明会が多数開催され、また区自治協議会代表も参加する各区の地域公共交通検討会議も始まり、市民の理解も徐々に広がってきています。

一方、市議会 9 月定例会で、市は来年度導入を目指す BRT の連節バス購入関連議案の提出を予定しているとのマスコミ報道がなされています。仮に 9 月議会でこの議案が採決されることになれば、連節バスの製造メーカーとの正式な契約が交わされ、BRT 来年度導入に向けて大きく舵を切ることになり、BRT 導入に疑問を感じていたり、心配している市民の声を無視してしまうことになりかねません。

私たちが認めているように、市の積極的な取り組みによって、ようやく市民の BRT 問題への関心と理解が広がっています。市による第 2 回目の区民や BRT 沿線コミュニティ協議会への説明会はこれからですし、各区に設置された地域公共交通検討会議も第 1 回目が終了したばかりで、実質的な討議となる 2 回目は各区で 8 月中の開催が検討されている段階です。

一方、市議会 6 月定例会では BRT 問題への質問が集中し、多くの市議会議員が「行政は市民の理解を得るべく更なる努力が必要」との見解を表明しています。

私たちの毎日の生活に直結する市民の公共交通のあり方を考える良い機会です。すでに予定されている市の各種説明会や地域公共交通検討会議での有意義な討議を保障し、さらに市民の代表である市議会での活発な討議を踏まえながら、市民の理解がより広がることを期待することが今は重要であると考えます。

市民の十分な理解と賛同を得たうえで次の段階に進むことを強く要望する立場から、下記の事項について要望するものです。

記

- ・新潟市議会9月定例会でのBRTの連節バス購入関連議案の提出については、再考していただきたい。

以上



西自協第 20 号
平成 25 年 9 月 3 日

新潟市長 篠田 昭 様

西区自治協議会
会長 真嶋 民雄



地域コミュニティ協議会への財政支援について（要望）

新潟市が進める自治基本条例の精神を実現し、地域自治を推進するため、西区においては、住民自治の基盤組織としての「自治会・町内会」、住民自治の要としての「地域コミュニティ協議会」、行政と住民との協働の要としての「区自治協議会」という構造の転換を進めております。

「地域コミュニティ協議会」においては、区自治協議会とともに、政令指定都市移行に併せて組織されてから現在まで、地域課題の解決及び地域住民の相互連携のため、日々尽力しており、ますますその重要性が高まっています。

しかしながら、後発ゆえに実態として自主財源が確保できず、運営は行政からの支援に頼らざるを得ない団体が依然多い状況にあり、当面は地域コミュニティ協議会への財政的な支援が重要な時期にあります。

そのような状況において、「地域活動補助金」の新規受付が新年度が始まって僅か 3 か月で終了し、地域コミュニティ協議会の活動に制限を与えるに至りました。ある意味、地域コミュニティ協議会が行政の支援のもと、順調に活動が活発化しつつある証しではありますが、各地域コミュニティ協議会の活動を支えてきた関係者に動揺を与えており、新潟市が進める地域自治の推進に少なからずマイナスの影響を及ぼすことが予想されます。

つきましては、このような懸念を払拭し、地域コミュニティ協議会のさらなる充実発展により、新潟市の目指す「分権型政令市」の理念のもと、地域自治をさらに進展させていくための具体的な支援として、下記のとおり要望いたします。

記

- 1 平成 25 年度は、地域コミュニティ協議会の活動に支障をきたさないように地域活動補助金の増額対応を早期に実施していただきたい。
- 2 平成 26 年度以降においては、住民自治の要である地域コミュニティ協議会を新潟市において明確化した制度として位置付け、地域活動補助金等の財政支援制度の総枠の増額、配分・運用方法の見直しなどを実施していただきたい。